

“もったいない”から
“ありがとう”へ



埼玉県フードドライブ 実施事例集



令和4年3月発行

彩の国  埼玉県

はじめに

埼玉県では、食品ロスの削減を推進するとともに、ひとり親家庭等の生活困窮者を支援するため、「埼玉県県下一斉フードドライブキャンペーン」を令和3年度に初めて開催しました。

この事例集は、キャンペーンに御参加いただいたいくつかの団体にお話を伺い、取組事例をまとめたものです。

初めてフードドライブを実施する団体、何年も継続されている団体、それぞれに課題を抱えながら、工夫や連携によってフードドライブを実施されていました。

この事例集がフードドライブを始めるきっかけとなり、抱える課題を解決するヒントとなることを願っています。

フードドライブとは

家庭で余っている食品を集め、それらをまとめて、地域の福祉団体やフードバンク等に寄付する活動のことです。

集まった食品は、地域の福祉団体やフードバンク等を通じて、子ども食堂や食品を必要とされる個人の方へ提供されます。

埼玉県県下一斉 フードドライブキャンペーンの概要

期 間 令和3年10月1日～11月30日

参加団体 91団体（市町村、社会福祉協議会、清掃関係一部事務組合、小売事業者）

実 績 47,000点24トンの食品が集まりました。
集まった食品は、地域の社会福祉協議会やフードバンク等を通じて、子ども食堂や食品を必要とされる個人の方に提供されました。



フードドライブ



必要とするところ



目次

初めてのフードドライブ

横瀬町健康づくり課・横瀬町社会福祉協議会	フードドライブは寄贈者の助けにも町 × 社協で取り組むフードドライブ	3
三芳町環境課	まずは机から フードドライブを職員の身近な取組に	4

実施方法の変更に挑戦

新座市環境課	常設実施に挑戦！ 市民に定着したフードドライブで食品ロス削減	5
上里町社会福祉協議会	ボックス設置で負担軽減！ 町民にも職員にもやさしいフードドライブ	6

多様な受付窓口

ふじみ野市福祉総合支援チーム	相談窓口ネットワークで連携！ 多様な施設でフードドライブを開催	7
和光市社会福祉協議会	運営施設を活用！ 市内をカバーする多彩な受付窓口で食品を回収	8
狭山市こども支援課	市内フードバンクと連携！ 支援対象を学んでフードドライブを展開	9

事業者との連携

戸田市環境課	事業者との連携で役割を分担！ フードドライブを継続的な取組に	10
--------	-----------------------------------	----

地域での広がり

宮代町社会福祉協議会	サロンでまとめて寄付！ 地域活動にも広がるフードドライブ	11
寄居町社会福祉協議会	野菜の寄付にも対応！ 地域に根差したフードドライブ	12

キャンペーンが連携のきっかけに

行田市・行田市社会福祉協議会	市と社協で初タッグ！ 市庁舎ロビーで受け付ける初めてのフードドライブ	13
美里町社会福祉協議会	相互理解が深化！ キャンペーンをきっかけとした情報共有	14

フードドライブは寄贈者の助けにも 町 × 社協で取り組むフードドライブ



受付期間 令和3年10月18日～10月29日

受付窓口 横瀬町健康づくり課・横瀬町社会福祉協議会

参加のきっかけ

県からキャンペーンへの呼び掛けがあった時、生活困窮者支援の担当者と児童福祉の担当者の間では「こんな取組ができたらいいね」と話していました。

時を同じくして住民から「家で余っている食品を受け付けてくれる窓口が近くにあれば良い」という要望が寄せられ、フードドライブ実施の追い風となりました。

県のキャンペーンということで、参加に当たっての内部調整もスムーズに進んだと思います。

役割分担や工夫

公民館での受付なども検討しましたが、初めての取組なので、まずは健康づくり課と社会福祉協議会の2つの窓口でスタートすることとしました。

集まった食品の提供に関する調整は社会福祉協議会に動いてもらうことが多く、これからも連携して取り組んでいきたいと思います。

寄付していただく食品は、お米や贈答品の余りと思われる調味料や海苔、乾麺などが多いように感じました。

食品を寄贈した方から「食品を寄付できるのはうちも助かるよ」と言っていただいたこともあり、フードドライブはもらう側だけでなく、皆にとって良い取組だと感じました。

課題や今後について

フードドライブを実施することの負担は特に感じていませんが、集まった食品の賞味期限管理や保管場所の確保が、取組を継続する上で課題になってくると感じます。

もし来年度もキャンペーンが実施されるようなら、継続して参加したいと思います。

まずは机から フードドライブを職員の身近な取組に



受付期間 令和3年11月8日～11月12日

受付窓口 三芳町環境課

参加のきっかけ

現状として、周辺自治体の多くがフードドライブを実施しており、三芳町としても「やらなければ」と思っていました。三芳町は子ども食堂の活動が盛んなので、フードドライブで集まった食品を提供できれば子ども食堂の支援にもつながります。

いつやるかを考えていた時に、県からフードドライブキャンペーンの呼び掛けがあり、「まずはやってみよう」ということで参加することとしました。

役割分担や工夫

初めての取組なので、数値目標などは設定せず、課題があれば改善しながらやってみるということでスタートしました。食品の受付窓口は環境課が行い、集まった食品の配布は福祉課で行います。

ホームページやチラシなどで住民にも提供を呼び掛けましたが、まずは職員に集中的に呼び掛けました。「机の引き出しに眠っているお菓子をお持ちください」と案内したので、お菓子の集まりが良いように感じます。

庁舎内にフードドライブののぼり旗を設置したことで、来庁する住民にも「フードドライブをやっている」とPRできたと思います。

課題や今後について

始めてみて、それほど頻繁に窓口を持って来る人がいるわけではないので、負担は特に感じていません。庁舎も比較的広く使えているので、集まった食品の保管場所にも課題はありません。「とりあえずやってみよう」ということで取組をスタートさせましたが、特に大きな問題なく実施できていると思います。

今回集まった食品は、福祉課を通じて町内の福祉団体等へ寄贈します。

常設実施に挑戦！

市民に定着したフードドライブで食品ロス削減



受付期間 令和3年10月1日～11月30日

受付窓口 新座市環境課

参加のきっかけ

新座市では平成30年度から、イベント時にフードドライブを実施してきました。今年度、コロナ禍でイベントが開催できない中、市としてフードドライブを実施しようと企画していたところに県からの呼び掛けがあり、キャンペーンに参加することとしました。

そのため、新座市では県のキャンペーン期間よりも1か月早い9月からフードドライブをスタートしています。

実施方法や役割分担

食品は環境課で受け付けています。窓口に持って来てもらった食品は職員が対面で受け取り、台帳に記載して期限管理を行います。

フードドライブの実施期間中は環境課で保管し、生活支援課に必要な食品があれば取りに来てもらい、それ以外は環境課からフードバンクネット西埼玉に提供しています。

課題や今後について

9月からの実施期間内は常設で食品を受け付けていますが、市としては特に負担に感じていません。イベント時の実施に比べて食品の保管期間が長くなったので、保管スペースの確保については、少し考えたいと思っています。

平成30年度にフードドライブを始めた頃は手探りで実施していましたが、ノウハウも蓄積され、市民にもフードドライブという取組が浸透しているように感じています。

フードドライブは、すでに家にある余った食品を持ち寄ってもらうので、市民に負担を求めることなく食品ロスの削減に繋げることができ、地域福祉にも貢献します。今後については、市内で活動する団体への食品提供も考えており、フードドライブの取組を継続していきたいと思えます。

ボックス設置で負担軽減！

町民にも職員にもやさしいフードドライブ



受付期間 令和3年10月1日～11月30日

受付窓口 上里町社会福祉協議会

参加のきっかけ

上里町社会福祉協議会では、コロナ禍以前から社会福祉協議会の予算で食品を購入して食品の支援を行ってきました。コロナ禍以降は社会福祉協議会で購入した食品に加え、企業や住民から寄付を受けた食品等も一緒に提供する活動になっています。

今回のキャンペーンについては、既の実施している取組の中で対応できるものだったので参加することとしました。

実施方法や工夫点について

今回のキャンペーンへの参加を機に、食品等の寄付受付をボックス設置型に切り替えました。これまでは、寄付する方に申込書を記入していただき、職員が対面で確認の上、受領証を記入してお渡ししていました。コロナ禍以降、食品等の寄付件数も増えており、受付時の確認と受領証の交付が職員の負担となっていた側面があります。食品の寄付ボックスを設置することで、職員にとっては大きな負担軽減になりました。

また、寄付する方にとっても、一点二点の食品等で申込書を記入して受領証をもらわなければいけないのは心理的にも負担だったようで、「ボックスになって寄付しやすくなった」という声も聞かれました。

課題や今後について

ボックス設置型に切り替えてから、週に1回程度の確認作業で済むようになりました。町民の方も気軽に寄付できるようなので、続けていきたいと思えます。

今後は社会福祉協議会内に冷凍ストッカーを置き、冷凍食品の寄付にも対応していきます。

相談窓口ネットワークで連携！

多様な施設でフードドライブを開催



受付期間 令和3年10月1日～11月30日（一部11月1日～30日）

受付窓口 ふくし総合相談センターよりそい、ふくし総合相談センターにじいろ、市環境課、市社会福祉協議会、ふじみ野市立介護予防センターほか、保育園・子ども施設12施設、高齢者施設2施設、障がい児・者施設2施設、診療所1施設、外国人支援団体1団体

参加のきっかけ

令和元年度から2か所の相談センターで常設のフードドライブを実施しています。今回のキャンペーンについて県から呼び掛けがあった際、相談センターだけで参加するのではなく、日頃からネットワークを組んでいる施設と連携した企画を実施することとしました。

実施方法

令和元年度から、市社会福祉協議会や市内の社会福祉法人等と協働して、生活相談なども含めた総合的な相談窓口事業「つながる相談窓口」に取り組んでいます。

今回のキャンペーンでは、この事業に参画している施設にも食品の受付窓口になっていただき、連携してフードドライブを実施しました。これまで参画施設と一緒に何かをやることがなかったので、食品の受付窓口になることで、参画施設同士の連帯感が生まれたように思います。

施設の中にはフードバンクやフードパントリーを実施している施設もあるので、各施設で受け付けた食品は各施設で使っていただくこととしました。使わない食品については預かっていただき、いっぱいになった段階で市が回収しました。

キャンペーンについて

フードドライブは、食品を寄付する市民にも「参加した」と感じてもらえる取組です。県のキャンペーンに参加するということで、内部調整も進めやすかったので、県が企画することで個別の自治体も参加しやすくなると思います。

運営施設を活用！

市内をカバーする多彩な受付窓口で食品を回収

**受付期間** 令和3年10月中旬～11月30日**受付窓口** 社会福祉協議会（地域福祉課、ボランティアセンター、寄り合いどころ「たまりば」、相談支援課、高齢者1施設、生活介護施設2施設、学童クラブ9施設、児童館2施設、就労継続支援B型1施設）

参加のきっかけ

和光市社会福祉協議会では、平成27年度からフードドライブを実施しています。昨年度からは、指定管理者として運営している施設でも食品を受け付ける「強化期間」を設けています。

今回のキャンペーンでも、社会福祉協議会が運営する指定管理施設でも食品を受け付けることとしました。

実施方法

各受付窓口で集まった食品は、各施設から相談支援課に届けてもらっています。相談支援課の建物内が指定管理施設等の連絡拠点になっているので、各施設との行き来も多く、都度食品を運んでもらえるメリットがあります。

各施設から集められた食品は、相談支援課が保管・配布します。寄付された食品の記録は、事務作業軽減のため台帳記入から写真保存に切り替えました。食品の期限管理はボランティアの方の力を借りています。

配布については、フードパントリーのように日時を決めてお配りするほか、相談支援課の中にある配布コーナーから、相談に来られた方に必要に応じて持ち帰っていただくこともあります。

課題や今後について

フードドライブの取組を進める中で、行政や企業との連携・展開が必要だと感じています。のぼりなどの啓発品も活用しながら、フードドライブという取組の認知をもっと広めていきたいと思っています。

市内フードバンクと連携！

支援先を学んでフードドライブを展開



受付期間 11月の任意の期間（各施設で実施日が異なります）

受付窓口 中央児童館、狭山台児童館、広瀬児童館、
水野児童館、総合子育て支援センター

参加のきっかけ

日頃から市職員が「児童館は地域の拠点である」という意識を持ってもらえるよう児童館へ働きかけを行っていました。令和2年のコロナ禍に、ある児童館からコロナで閉店した衣料品の寄贈の相談があり、食料品以外も支援している「フードバンクさやま」につなげたことをきっかけに、徐々に児童館が様々な形でフードバンクさやまと直接やりとりを始めました。

今回のキャンペーンについては、市と児童館とフードバンクさやまの三者が連携して参加することになりました。

実施方法

① フードドライブと支援先を知る

県からのキャンペーン用の啓発品を各施設に配付し、まずは施設職員からフードドライブについて知ってもらい、その後、フードドライブ実施直前の全児童館長と総合子育て支援センター長が集まる定例会議において、フードバンクさやま代表から狭山市のフードバンクの仕組みや集まった品物がどのような支援につながっているかなどをレクチャーしてもらいました。

② 開催の準備と市民への周知

各施設には、フードバンクさやまから「のぼり旗」と「回収ボックス」のセットを配付してもらい各施設において開催に向けて、チラシ、SNS等によりフードドライブ実施の周知を行いました。

③ 実施と回収と支援

各施設の都合の良い任意の期間でフードドライブを実施しました。

回収方法は、各施設から適宜フードバンクさやまに連絡して物品を回収してもらい、フードバンクさやまが必要とするご家庭やこども食堂等に配付します。

課題や今後について

「各施設とも無理をしない範囲」でスタートし、必要に応じてこども支援課やフードバンクさやまと連携しています。

今回のキャンペーンへの参加をきっかけに、フードドライブを知り、その先にいる支援対象が見えるようになり、今後も市と児童館等とフードバンクさやまが連携して、フードドライブの拠点として継続して実施することになりました。

子育て支援施設での回収品は子供に特化したものも多く、フードバンクさやまを通して市内の子育て世帯の方々に喜んでもらっています。

事業者との連携で役割を分担！

フードドライブを継続的な取組に



受付期間 令和3年10月1日～11月30日

受付窓口 戸田市環境課

参加のきっかけ

戸田市では、コロナ禍で生活に苦しむ世帯を支援するため、令和2年度にフードドライブやフードパントリーを単発で実施したことはありますが、継続して実施する仕組みがありませんでした。

このような中、令和3年5月に、明治安田生命保険相互会社から連携事業として「フードドライブ」の提案があり、継続的な取組として職員を対象にしたフードドライブをスタートしました。この取組が新聞などに掲載され、市民や事業者からも食品等の提供の相談が寄せられるようになりました。

なお、県のキャンペーンに参加することで、市民や事業者の食品ロスやフードドライブに対する認識の向上につながっていると思います。

役割分担や工夫

明治安田生命との枠組みでは、市が食品を集め、明治安田生命が集めた食品の回収と子ども食堂に配送するという役割分担で実施しています。

食品の受付は、環境課の窓口で職員が対面で行い、個数や期限を確認して台帳に記録しています。

明治安田生命は月末に回収に来て、子ども食堂に配布しています。

この取組では、市は食品を集めることに集中でき、配送や子ども食堂との調整は明治安田生命が行うため、フードドライブを実施する際の負担が分散されています。

今後について

今回のキャンペーン期間中、こども家庭支援室がイベント内でフードドライブを実施したところ、参加者から多くの寄贈をいただきました。また、町会活動の一環として、フードドライブを自主的に実施する町会がいくつかあるなど、市民等にフードドライブの取組が浸透してきていると感じています。今後もより地域に根差したフードドライブの輪を、さらに広げていきたいと考えています。

サロンでまとめて寄付！

地域活動にも広がるフードドライブ

**受付期間** 令和3年10月1日～11月30日**受付窓口** 宮代町社会福祉協議会

参加のきっかけ

平成28年度に宮代町社会福祉協議会として子ども食堂をスタートし、そこから子ども支援の観点で食品の寄付を受け付けるようになりました。

キャンペーンについては町の福祉課から参加の打診があり、社会福祉協議会が町からフードドライブ事業を受託していたこともあり、参加することとしました。

実施方法

食品の受付は社会福祉協議会で行っているほか、町の福祉課にも回収ボックスを設置しています。福祉課の回収ボックスが一杯になったら連絡をいただき、社会福祉協議会で回収に行っています。

社会福祉協議会での受付は、カウンターでお申し込みいただくとお礼状をお渡ししています。お礼状はいらないという方も気軽に寄付できるよう、玄関ロビーから靴を脱がなくても手が届く場所に回収ボックスを設置しています。

少量の食品寄付では気が引けるという方も多くいらっしゃるようで、「量を寄付できない」ことがハードルとなっているようです。

こうした中で、最近では地域交流サロンの時に参加者が食品を持ち寄り、まとめて社会福祉協議会に届けるという動きが出ています。サロン単位ならそれなりの量になるので、食品寄付に対する心理的なハードルが下がるようです。

寄付していただいた食品は、パントリー事業や子ども食堂の活動に使わせていただいています。

キャンペーンについて

キャンペーンは取組を広めるきっかけになるので良い取組と思います。

常設のフードドライブはどうしてもマンネリ化して回収量が落ちてしまいますが、こうしたキャンペーンがあるとメリハリが付きそうです。

野菜の寄付にも対応！

地域に根差したフードドライブ



受付期間 令和3年10月1日～11月30日

受付窓口 寄居町社会福祉協議会

参加のきっかけ

寄居町社会福祉協議会では平成27年度にフードバンク事業を開始し、その時から食品の寄付を受け付けています。「フードドライブ」を初めて謳ったのは平成30年度に開催した地域福祉講演会でした。講演会のチラシに当日フードドライブを実施することを記載したところ、多くの食品が集まりました。今回のキャンペーンに参加したことで、取組の認知度が向上したように思います。

実施方法

社会福祉協議会の窓口で食品を受け付け、食品を必要とする方にお渡ししています。受付は職員が対面で受け取り、台帳に記入、保管しています。

配布については、これまでの窓口での提供に加え、今年度初めてフードパントリーを実施しました。

令和元年度に「生鮮野菜フードバンク」という登録制度を設け、自家栽培する生鮮野菜などを寄付していただく取組を行っています。ご協力いただいた生鮮野菜などは、寄付していただくタイミングにもよりますが、フードパントリーと一緒に配ったり、継続支援している方にお渡ししたりしています。

キャンペーンについて

キャンペーンに参加したことで、町の広報紙に掲載してもらうことができました。掲載の効果とありますが、寄付件数はキャンペーン開始前と比較して3～4倍に拡大しています。初めて寄付して下さった方も多く、「こんな取組を初めて知りました」といった声も聞かれました。

食品の寄付が増える一方で、食品を必要とする方も増えています。保管場所などの課題はありますが、今後も安定的に食品の回収や配布を行っていきたいと思います。

市と社協で初タッグ！

市庁舎ロビーで受け付ける初めてのフードドライブ



受付期間 令和3年11月7日～11月10日

受付窓口 行田市役所本庁舎正面玄関ロビー

参加のきっかけ

行田市では、社会福祉協議会が平成28年度から常設のフードドライブを実施しています。年に3回の強化期間を設定し、市民に食品の寄付を呼び掛けています。

今回のキャンペーンについては、市と社会福祉協議会が連携して、初めて市庁舎でフードドライブの受付を行うこととしました。

実施方法

食品は市庁舎ロビーに設けた受付テーブルで職員が対面で受け付けます。受付テーブルには市と社会福祉協議会の職員が交代で詰めています。

その日の受付時間が終わると、受付テーブルを片付けて、寄付された食品は社会福祉協議会が持ち帰ります。

集まった食品は、社会福祉協議会が生活困窮者に提供するほか、北関東フードバンクに提供します。

キャンペーンについて

今回のキャンペーンをきっかけに、市と社会福祉協議会が連携して、初めて市役所に受付窓口を設置しました。

社会福祉協議会では常時受付を行っていますが、市の端に位置しているため、そこまで届けていただくのは市民にとって負担となります。市民が持ち込みやすい場所に受付窓口を設置できれば良いと思っていたところに、市庁舎での受付が実現しました。

キャンペーンの初日は日曜日でしたが、予想以上に多くの方が食品を持って来てくれました。また、平日は職員の提供が多く、住民にも職員にもフードドライブの取組をPRできたと思います。

相互理解が深化！

キャンペーンをきっかけとした情報共有



受付期間 令和3年10月1日～11月30日

受付窓口 美里町社会福祉協議会

参加のきっかけ

美里町社会福祉協議会では、令和2年12月から小学校の長期休暇にあわせてフードドライブを実施しています。集まった食品は、新型コロナウイルス感染症の影響で減収した世帯などに配布しています。

今回のキャンペーンについては、社会福祉協議会として元々フードドライブの実施を予定していたため、参加することとしました。

実施方法

食品は社会福祉協議会の窓口で受け付けています。受け付けた食品はフードパントリーなどで配布します。

フードドライブの広報は、社会福祉協議会の広報紙やホームページで行っています。また、小学校と中学校にチラシを配架しています。今回のキャンペーンでは、保育園にも掲示板にチラシを掲示させていただきました。

美里町ではフードドライブもフードパントリーも小規模ですが、需要と供給のバランスはとれていると思います。

社会福祉協議会には単独で使用できる保管庫がなく、フードドライブが今以上の規模になると保管場所が課題となってきます。状況を見ながら適正規模での実施を継続したいと思います。

キャンペーンについて

県からのキャンペーン参加の呼び掛けに対して、町としてフードドライブを実施するか検討する中で、町の福祉担当者から社会福祉協議会にフードドライブに関する確認連絡があり、情報共有を行いました。

キャンペーンをきっかけに、町と社会福祉協議会との相互理解が進み、フードドライブ以外の取組についても、町に相談があったら、内容によって社会福祉協議会につなぐという流れがより確実になってきたように思います。

これからフードドライブを始める市町村などの皆様へ

フードドライブの実施ステップ

ステップ 1

集めた食品の提供先を決める

社会福祉協議会？ 子ども食堂？ フードバンク？ 個人？

※提供先として、子ども食堂やフードパントリーを
県が御紹介することもできます！

ステップ 2

提供先と集める食品の条件を決める

賞味期限までどのくらい余裕が必要？ どんなものが必要？

ステップ 3

フードドライブの実施期間・場所を決める

集まる食品を保管しておく場所も忘れずに！

ステップ 4

フードドライブの実施を周知する

チラシ、ポスター、HP、SNS など様々なツールで発信！

※県 HP でもフードドライブの窓口を紹介しています
(問合せ欄の QR コードをチェック)。
掲載を希望する場合は御連絡ください。

ステップ 5

フードドライブの実施

受付にのぼり旗などの目印があると
わかりやすい！

※県では「フードドライブ」の
のぼり旗を提供しています。
御希望の場合は御連絡ください。

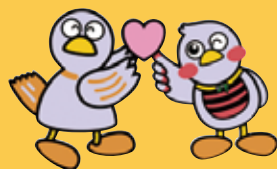


ステップ 6

集まった食品を提供先に渡す

実施結果を HP や SNS など発信！

発行・問合せ



埼玉県マスコット
「コバトン&さいたまっち」

埼玉県環境部資源循環推進課

電話：048-830-3108

この事例集は県ホームページにも掲載しています。



埼玉県 フードドライブ

検索